刊休無中日町石城 長馬 馬馬 青河 市城部 所 五線 馬馬 青河 市城部 所 五編 軒 三 一 一 電北 東 町 自 島 孝 田 最 上 田 銀縣

年

民政縣参問題は

大島支部長調停

野崎若松兩氏を東京に招ぎ

結局若松氏断念せ

巧みに配布された 聞

其手段に係官も驚く さして

は共産黨の殘氳が各地に潜||調べてゐる尚共産黨員の大は共産黨の に亘って秘密裡に 隆(二二、外数名を召喚連日|産者新聞を一般に講讀させ|靖治君は同校退學の際國債| 人し無産者が聞を發行して 事は既報したが事件の内容 六丁目舊勞農黨員大井川幸|心人物は大井川で同人は無| 半署が、 穏文書頒布に關し 取調べ をなしてゐたのであると言明してゐるの 動を開始した結果平町 **檢學後秘密出版の無產者類** で十六日引續き大井川を取 左翼無産黨の輓回を企てた 讀してゐた事實もあるが り同村青年瀧某外數名で講

家賃心地代 Z

割値下げしろ 社民黨石城支部で近く 借家人組合大會開催

産者新聞を平町佐藤清長

村輝雄、加藤谷龜雄、

發賣頒布を禁止された無 大井川をリーダーとして

更にこの外磐中を昨年卒業|主地主に向つて運動する事 町等に二部乃至は三部位上に開催時局問題を種々協 手で同郡泉村並に小名宿 曾は十五日平町南町支部樓 に顧問辯護士を共に即時 |村富岡武夫の四人の||社會民衆黨第三回執行委員||台大會を開催本部特派員並 の久保光雄に一决して散曾直ちに運動 議した結果取敢へす借地 たが同組合では更に近々平|成し來る十八日から開通す を開始する旨十六日發表した鐵骨コ線橋は工事全く完 を三割方値下げする事を屋 階級の為めに借地、借家料 組合を 設立勤勞無産 平町大工町踏切りに架設し かる 連動は極めて興味を惹いて あげる由で時節柄同組合の|十歳前後の女が通行人に悪 値下げ断行の氣勢を午後七時頃泥醉した一見五 大工町踏切完成 りを始めたので居並ぶ署員 て真つ裸となりステ、コ れ來つた處同人は隙を窺つ

借家人組る事となつた

て其のまゝ

を探さんものと各地を俳字すると

なすに至つたものである

事實をつきとめ逐に關係 借家人

聞が 製回に 亘つて頒布さ

石城民政派の縣参問題は既とになり野崎、若松兩氏に

債國 質認念 校生徒

十五日曾我校長は小柳知事 圓五十錢獻金方申出たので 償還の資に供されたいと一 中町第一小學校一年生松原 一圓五十錢獻金

れてゐた巧妙な方法には警 察官局も驚いてゐた

報の如く大勢町崎滿藏氏に出京方を促して來たので雨

の大島要三氏が仲裁するこ氏に決定する模様である 若松美三氏側も容易に屈し|結果種々なる事情から さうないのでこれを在京中 若松氏 は断念し野崎 有利こ なったが然し氏は十五日上京したがその

横山河北支局長い 矢野特高謝罪して 圓満なる解决を見る

長横山顯氏にとつた行動が全く穏當を欠いてゐた 平署特高主任矢野警部補は昨十五日河北新報平支 で弦に問題は圓滿解決された の上に横山氏へ謝罪し横山氏又之れを諒としたの と云ふので今十六日署長室で在平新聞記者立會ひ 在平記者團立會ひの上

女だてらの酒亂劇

平署内で腰卷一本の裸踊り

から

|中町六丁目地内を昨十五日||人を寢かし醉ひの覺める てかゝるので結局本署へ連 巡廻中の平署員が發見説諭 口雑言を浴びせてゐるのを を加へんとしたるに同女は 生意氣な巡査野郎と喰つ がの警官も呆れ返へる を待つて取調べた處同人は 山形縣西置賜郡荒畑村大

之れに就て十八日午後一時 之れに當るか三萬町民から 室に開催されるが今後委員 連は如何なる態度を持つて から連動方法其の他を協議 は開始される事となつたが の爲め委員會を町役場會議 町の問題となって愈々運動 電燈値下げ問題は兎に角平 致承認された平町に於ける **丁五日の町會に於て滿場一** 運動方法 十八日の委員會で

磐中生の 發火演習

なった

勘からず注目されてゐる

料診察デーを催し好結果を 茨城縣大津町方面に巡回無 中町磐城共濟病院では過般

て同人を置き去りにして と同せいしてゐたが彼は的四百名はその前日の二十 前迄原ノ町に於て下條某演習を舉行するが四五年生 町某木賃宿居住無職三宅一百餘名が南北南軍に別れ 字新町生れ當時平町鎌田より來る二十六日全校生一 無斷逃走其の後回女は職落露營を行ひ演習氣分を滿 大の酒鼠で亭主もあきれ五日から軍事行動を開始し シグ(五八)と稱し一昨年郡内某村を中心として發火 同夜は陣營を張つたまう村 縣立磐城中學校では例恒に 二十五六の兩日 大体に於て來る二十五川か電話は目下工事中であるが ら通話の運びに至るものと 午前十一時催した 三小學校棟上式は今十六日第三校の棟上式。平町第 見られて居る 町に於ける本年度の架設 新設電話は

月二十一日田村郡小野新町 得たのに鑑み更に來る十一 に於て無料診疾を行ふ事 來る廿五日頃通話 ……的術藝し用應を光採の新最は影撮 すまし致製調を眞寫……

平局の

てに法光採の特獨舘弊は影撮間夜 んせまりあり變と影撮間晝・

共濟病院が

の事が用で

無料巡回診療施行

な天氣でありますが降る 明十七日も今日と同じ様 三杯と傾けて五合程をペ 某飲食店で途に一杯二杯 失敗して昨夜も六丁目の 徊し最近平 でするが今迄も酒のため たも 濱三郡教育會 聯合總會

ら懇々で意見されて引下 ので宿直の齋藤警部補か に及んだものと判明した ろりと平らげ前記の始末 あると 富日は小野田文學博士並に|索方願出た 公會堂において開かれるが|實父藤吉は十六日平署に捜 復三郡教育會聯合總集會は 伊藤福島高商教捕の講演が 十七日富岡町で

教育品展

から四日間富岡小學校に を轢き倒したが別條はなか 自轉車に轢かる

十七日から富岡

濱三郡聯合教育會では十七|官舍居住の杉田要治(七ツ) 午後八時頃自轉車に乗って 大工町を通行中誤つて鐵道 人新妻兵吾(一九)は十五日平町白銀町建具商山本方雇

電燈値下げの

濱三郡聯合

つた

する

おいて教育品展覽會を開催

午前九時から富岡町返し行衞を晦らましたので が夕刻子供のみを自動車で)例の子供を連れて家出した は一昨十四日午後四時頃近 赤井村高萩前田ツル(一七 家出娘の搜索願

様な事はないと思ひます

有聲座の割引券あり 白銀 九山雜貨店

前

和タク

御用命は

平町南町火の見下

Á

八圓八十錢 五圓五十錢 二圓七十錢

五圆

九圓五十錢 七圓九十錢

電話五四三番